

多文化共生事例集作成ワーキンググループ（第2回）
議事概要

（1）伊藤新構成員より新任挨拶

（2）事務局より資料について説明

○ 資料2（事例集骨子案）

- 事例集は、「前文」、「本体」、「後書き」により構成。
- 本体の構成に関しては、「（1）コミュニケーション支援」、「（2）生活支援」、「（3）多文化共生の地域づくり」について、多文化共生推進プランの構成を基本的に踏襲するとともに、「（4）地域の活性化やグローバル化への貢献」については、同プラン作成後の新たな取組として項目立て。

○ 資料3（応募事例一覧）

- 応募総数は、118事例。1項目につき3～5事例程度を選定。
- 「（1）①多言語・やさしい日本語による情報提供」、「（2）②教育」、「（3）①地域社会における多文化共生の啓発」の項目は応募事例数が多い一方で、「（2）③労働環境」、「（2）⑤防災」の項目は応募事例数が少なく、「（2）①居住」については、事例の応募がなかった。
- その後、項目ごとに応募事例の概要を説明。

○ 資料4（事例集様式）

- 個別の事例毎に「取組の概要」、「キーワード」、「取組の背景」、「取組のポイント」、「取組による成果」により構成。
- 他薦の事例については、自薦の事例と比べて情報量が少ないので、事例選定が完了したら、該当団体から追加の情報をいただく予定。

（3）議論

- 事例集骨子案（資料2）及び事例集のうち「前文」・「後書き」を山脇座長に執筆いただくこと、事例集様式（資料4）について、構成員から了承された。

○ 応募事例一覧（資料3）について、

- 「(2) ①居住」、「(2) ⑤防災」等の候補事例数が少ない項目を中心に追加事例が構成員により推薦されるとともに、それ以外の項目については、掲載する候補事例の選定が概ね了承された（選定された候補事例数：43事例）。

<主な意見>

- ・ 多くの応募を頂いたので、できるだけ幅広く事例を掲載したい。
- ・ 参照すべき好事例を示すことが重要なので、基本的には1項目5事例程度とし、内容的には是非全国で紹介したいものであれば5にこだわらず6～7事例を選定してはどうか。
- ・ 応募事例には、地域的な偏りがあり、東京や関西の大都市と東海地方からの応募事例が多い。事例の選定にあたっては、地域バランスも考慮する必要がある。
- ・ 全ての事例を検討した後、項目を通して考える等の観点から、もう一回全体を見直す必要があるのではないか。そのためには、○と×だけでなく、△の事例も挙げておいた方がいい。
- ・ 素晴らしい施策が整備されたが、それが実際に上手く機能していない場合も考えられる。現場で運用されている実態をきちんと確認した上で検討すべき。

(4) 今後のスケジュール

○ 今後のスケジュールについて、以下の点が了承された。

- ・ 第3回ワーキンググループ（以下「WG」とする。）は10月に開催し、第4回WGは12月～来年1月に開催する。
- ・ 第3回WGでは、今回のWGで選定した候補事例について、地域的な偏りを踏まえつつ再検討するほか、事例数が少ない項目について、追加事例の検討を行い、掲載事例を確定させる。
- ・ 第4回WGでは、事例集原案を確認する。

以上